

世間と人権 —— 共存は可能か？

日時 2025年6月27日（金）13：00～14：30

場所 千里山キャンパス 尚文館 1階 マルチメディアAV大教室

講師 宮本 要太郎（室長、文学部教授）

日本社会において「世間」は人々の日常生活に深く根ざし、「空気」のような曖昧で見えない圧力として、個人の行動を規定している。より具体的には、「世間」の圧力が家族関係や性的指向、精神疾患、宗教など、さまざまな場面で個人の自由や尊厳を制限し、人権侵害を生み出す要因にもなっている。

「世間」と「空気」は厳密には異なる概念であり、「世間」が家族や職場など安定的な人間関係の集合体であるのに対し、「空気」は状況に応じて形成される流動的な圧力であるとされる。現代日本では、伝統的な「世間」が弱体化する一方で、「空気」に従うことは相変わらず重視され、異論を唱えることが難しくなっている（同調圧力）。

「世間」の持つ共同体的な支え合いの精神や、暗黙の思いやりは、日本において伝統的に一種のセーフティネットとして機能していたし、今でもそうであろう。日本において自由で平等な個人を前提とした「市民社会」が育ちにくいのは、「世間」の存在が大きいの指摘もあるが、単に「世間」を否定するだけでは、「個人」ではなく無数の「孤人」を生み出しかねない。

したがって、「世間」と人権を両立させることが望まれるが、そのためには、多様性を受け入れる意識や制度的・文化的な改革が必要であり、特に教育の充実、法制度の強化、メディアリテラシーの向上、そして「空気を読む」から「空気をつくる」意識への転換が求められる。

「世間」を全面的に否定するのではなく、「人権を支える世間」へと進化させることが重要であり、その基盤の上に多様性や個人の自由を尊重する社会を築いていくことが喫緊の課題であろう。

* * *

●聴講無料（定員200名／先着順）＜事前申込制＞

人権問題研究室ホームページ トップページ (<https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>) にある「新着情報」内の本講座案内ページの申込フォームから事前に受講申込をしてください。定員になり次第、受付を終了します。

空席がある場合に限り、事前申込をされていなくても聴講は可能です（当日会場にて参加受付を行います）。ただし、なるべく事前申込を行ってください。

* 手話通訳や介助者同伴等が必要な場合は、6月4日（水）までに人権問題研究室へご連絡ください。

第121回 10月24日（金）13：00 「神経発達症をとまなう子どもの理解の視点」

第122回 11月28日（金）13：00 「トランスジェンダー生徒と学校」

会場は、尚文館 1階 マルチメディアAV大教室（予定）



主催 関西大学人権問題研究室

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35 阪急千里線「関大前」駅下車

Tel 06-6368-1182 Fax 06-6368-0081

e-mail : jinkenken@ml.kandai.jp

ホームページ : <https://www.kansai-u.ac.jp/hrs/>



「新着情報」をご参照ください